



蟬塚集下

秋之部

乾坤

阿きた川やわらうと西乃河明り イセ 方行

松をりり又き居て秋を忘るなり アハチ 梅巻

あむより人の生る處を忘るの秋 チクコ 菱五

宵静と来てを川 秋を打りしを空 風朗

初あはれのあま杖つゝわたりうら 沙鷗

あはれ

初秋也 赤くけしきり 楳の葉 沙 其
 稲妻也 一坐しきせし 経たあそ 海 甚
 いあつても ますしきあ 初らぬ 雲 明り 雲の 吳 曾
 星 能 初 子 一 坐 せ せ け 一 芦 の 風 上ツケ 風 石
 よ 能 初 子 一 坐 せ せ け 一 天 能 川 サカミ 板 巻
 糸 掛 一 坐 せ せ け 一 形 能 初 子 一 け せ ヒウカ 双 鳥
 と 初 子 能 袖 能 巻 せ 有 初 一 小 袖 エト 詠 海
 洗 子 人 手 子 初 子 能 初 子 一 け せ エナノ 葛 古

露 能 玉 初 子 一 坐 せ せ け 一 風 外
 山 一 け 初 子 入 せ せ け 一 霧 能 初 子 霧 ヨハリ 茨 山
 雲 能 初 子 一 坐 せ せ け 一 井 の 底 也 ヲグ た よ 女
 海 能 初 子 一 坐 せ せ け 一 雲 能 初 子 一 け せ 上ツケ 汀 香
 心 能 初 子 一 坐 せ せ け 一 也 秋 の 風 蒼 朧
 心 能 初 子 一 坐 せ せ け 一 也 初 子 一 風 子 渡

きろくわさのぬきかき 秋の風 ムサシ 喜荷
秋風や海に面をゆくもなほし 寄三
ま川宵をゆくわ新月の雪の如 遠岡
名月也るも夜ととる船も及ふ 風洞
隈をゆくもなほかき 一月の船 梅室
押せんとてなほ音も那 一月の船 エト 櫟翁

花園山

澄くくさるるもちるる秋の月 卓池

高とれ筑まきととあふく 浦の月 沙路
月夜 ハヒ 月夜 ハヒ 月夜 ハヒ 梅若
物なく月夜旅人通りけり 西了
阿そ好む降る能くく月夜雨 ミナ 白富
いさよ心のうきまてんきふふ山 イヨ 映門
才ふ秋や帯袖撫きく阿そり口 カヒ 二原
雲よまて服あふくのぬきかき 阿そり口 ミナ 有長
秋夜知る外よ書かき ミナ 有長 碩布

善光寺

人形能維る百々水永新水 南

念

新水やう川に多流るるに 画流

志見〜川〜人あふれ新水也 梅室

や〜多流るるやあを成る岩戸の山 ムサシ 青扇

又〜の〜花生るる〜 ヲハリ 柳

新水と柳り〜川〜ぬり〜 エト 義香

引河〜川〜あを成る子加を チクセン 雨堂

引河〜又〜あを成る子加 エト 長史

家掛〜あを成る子加 上ツケ 湛

感何

人志〜川〜あを成る子加 エト 家三

あ〜ら打お〜あを成る子加 エト 子輪

眼の〜あを成る子加 エト 逸淵

植物

栲相能ちちや^{アフミ}一葉^二栲
 一思葉^{ムサシ}相心と葉^杜人
 本葉を^{テハ}花^右櫛^橘
 於良也^門海^莖
 いらぬ^天遊
 阿^{エト}樹^村
 葉^耕女

戦^木杜^櫛
 掃^{セツ}冬^岐
 能^{レナノ}村
 穂^{エネコ}乙^良
 以^{メシハ}九^葉
 活^{スルカ}有^隣
 若^有臺^了
 常^{ムサシ}有^臺

高下うらむ人のあつむ那、^{シナノ} 温惠
月さす一洞、^{エツケ} 六枝
軒外秋風あつむあつむあつむ、
外
碑之身をあつむ一、指や夢あつむ、
一
斗能あつむあつむあつむあつむ、
士
孝

清風徐来水波不興

芦花穂の志、^{ハシノ} 菊
蔓能あつむあつむあつむあつむ、
羽文

垣そのあつむあつむあつむあつむ、^{ハシノ} 一考
破つてあつむあつむあつむあつむ、
嵐外
草あつむあつむあつむあつむ、
蒼圮
和のあつむあつむあつむあつむ、^{キイ} 采那
あつむあつむあつむあつむあつむ、^{トサ} 嵐夕
一本あつむあつむあつむあつむ、^{上ツケ} 翠峯
内外あつむあつむあつむあつむ、
梅不
とつ粟あつむあつむあつむあつむ、
洒瀟

新玉

神風も杉の勢も吹稻穂の乳

耕雪女

山家

我深くやうまの心まはるみちの乳

碓嶮

春の葉もまをくし折れもみちかな

ヒコ 席月

有明のうけ掃きくはぬ葉の如

ナニハ 茶屋

遠近も木はやうく折れまをくしかな

トナ 休堂

月影もさしけりまをくしかな

四時をくまのむ十揚舎まをくしかな

あつて妙あつてまをくしかな

あつて妙あつてまをくしかな

あつて妙あつてまをくしかな

山華は白むきくし人肘袋

牟池

んせくあつてまをくしかな

チリコ 紫巻

あつて妙あつてまをくしかな

シナノ 紫

あつて妙あつてまをくしかな

チク 草阿

昔もあれはよく〜
家三

咲きさらぬも〜
天郎

生類

松原四山子林を刻して

さあ〜の古歌

〜の古歌

〜の古歌

江戸 琴のうら〜
鳳朝

吹やう〜
菊

垣堀本と〜
菊

山外 山外

山外 山外

山外 山外

山外 山外

山外 山外

山外 山外

あまのたのむるも落つて岬の那 ムサシ 素仙

あまの時を待たせりし中流に居る、 尺二

勢をたんとしとて人の草かき電、 湖山

日に向ふてんきうふ時をゆへー ミカハ 塞了

まもきぬ時をゆへー那の川原かき 上ツケ 分尾

雨能言一敷の鮎のまむまけり エト 三和

衣食

後生能まじりてあから月能る アハ 右拳

つゝ能ねを可いふ人きぬ イセ 省吾

別に利へたる人新酒 ニナノ 桂徑

歩りまきまた九り小袖 イ 又

ね イ 西了

神解

魂桐や大 上ツケ 家河と人 イセ 居る 歩文

玉桐に イセ 明く イセ 安き イセ 人 イセ 終 イセ の イセ 那 イセ 耕聖女

益能月 イセ 去る イセ 能 イセ 先 イセ へ イセ 歩 イセ り イセ け イセ せ イセ 角洲

舟より〜〜〜〜〜
北洋 エキコ

灯をつけぬ時〜〜〜
素三 上ツケ

南好手〜〜〜
南

此方より〜〜〜
西馬

船〜〜〜
玉芝

以上ノ書事

撫牛好〜〜〜
遠園

冬〜〜〜
奇三

冬〜部

乳坤

十月七日并当〜〜
風朗

幽〜〜〜
茶外 十三

持〜〜〜
茶

弓控〜〜〜
葵笠

小〜〜〜
茶

砂壁の砂〜〜
秋葉女

遠山はゆき、吹り、さか、小魚、のり、船、二ト、露、花、女
加、家、了、通、子、を、お、し、空、花、を、あ、き、馬、三、十、物、礎
那、菜、畑、を、う、り、と、雪、乃、子、一、け、ま、い、六、寸、風
日、結、い、ま、月、花、出、け、う、ま、の、人、 菊、
組、板、花、鯛、子、を、り、く、ひ、雪、の、り、船、エ、助、宣
橋、や、女、子、う、ま、け、を、け、く、な、ま、か、 風、節
氷、ま、く、と、か、く、を、ま、ぬ、登、乃、江、 舟、煙
投、き、れ、八、上、つ、く、雪、子、を、氷、の、り、那、エ、一、酒、一

ぬき、推、花、花、よ、う、つ、く、さ、り、の、れ、
お、ま、一、ね、ま、ま、み、し、の、阿、る、氷、柱、下、ヒ、チ、一、兆
人、生、お、く、ま、あ、か、ま、あ、り、ぬ、冬、籠、 四、山

忽年二十四とあるは未だこの詩を

見よとあるは亦同一年齢をいふなり

手、よ、ま、く、り、推、花、あ、り、く、く、 冬、籠、 菊、三

猶、越、ま、り、す

寺、人、ま、く、春、を、推、る、ま、び、さ、る、れ、 蒼、帆

掃るきねききし一なるむとくはくき口岳風
是ころ人け名とさくさむしこのぬムサシをひき
次の方へ組板きききしむさかき、一鬼
ひきききききききききききききききき
きききききききききききききききき
掃あきのけききききききききききき
立歩り用お多きよ置巨煙エト宿居
松風を軍つて映たこく山、のぬよつて松蔭

洞窟を先うきかよや炉のいろを梅室
あきよむうききおこけ炭をくれ風外
藤乃実ひ肩をね越る櫛火かきエト乙雄
若人の袖をききききききききききき山公
若外はあきハ消る櫛火う卵、若海
精うき又裾やうふ清さき妙きムサシ折漣

山家

若ききききききききききききききききき
若き

うさひのそとにけしきしき津の西 中野 浮山
 冬乃月 遠い 五ト 永之
 舟倉 上ッケ 静山
 朝風 や下 城 由誓
 良ん 世の 咄 南
 冬乃 月 耕雪女
 法 英島

暎 苦の 麓 伯遠
 暎 苦の 麓 逸淵

植物

檜 山外
 即乃 淡高
 松 小栞
 手 森縁
 松 無別

ぬくもく 増はあのみや六指引 壺布
夕夕人門子持く 一 大指乳 エト 此の女
こちれ麦生く 河原も枯野加子 涼 九起
うらうらおぬく 是も加子のお ナニハ 五繰
枯あや流き那く 此風乃知と 嵐外
月之けの如き 芦一葉きよれ ムサシ 目休

生小歌

子守歌く 家もとつり ハ 風朗

鳴戸のたつ 舟のきんち ト 舟地
枝川へわらぬ 秋のけ子 ト 仁里
水よりや吹く エト 旭洲
解けき イセ 雲石
心ゆく イセ 破布

衣念

一枝葉察

口切や ねの イセ 西島

予とてわづらひしとてさく庵の江中、うね エト 味舎
隣へて居きとて身も海に帯衣を エミウ 氷其
是は海をたつたぬ帯衣の好く加 ハサ 文良
納豆とて再とてのり来ぬ 漢の那 菊

神報

神の留といのらぬ海に降ふなり 玉芝

箱忌

浮きおとさくまきま ハ 雲 ト 雲
栲宝

岸のつゝぬまのあはれ十粒 トツケ 嵐高
風より人をたき ト 里神 ト 江月
海を アハ 舟 ハ 舟 ハ 舟 ハ 舟
過る エト 舟 ハ 舟 ハ 舟 ハ 舟 ハ 舟 ハ 舟
川を洗 エト 舟 ハ 舟 ハ 舟 ハ 舟 ハ 舟 ハ 舟 ハ 舟 ハ 舟

公事

法言徳 ハ 舟 ハ 舟 ハ 舟 ハ 舟 ハ 舟 ハ 舟 ハ 舟 ハ 舟 ハ 舟 ハ 舟
名 ハ 舟 ハ 舟 ハ 舟 ハ 舟 ハ 舟 ハ 舟 ハ 舟 ハ 舟 ハ 舟 ハ 舟

紫雲

煤掃の掃立をきく恒根の乳 上ツケ 之封

師乞十之廿

法江石をきく古の海

草枕をきく

旅笠をきく打拂ふ水より エト 家之

空をきく志をきく餅を エト 月恵

豆うちや巻をきく エト 風盤

歌年表

難刀の珠数引 エト 忘き 逸閑

骨折の年 エト 忘れけ 李 下ツケ 廣河

より エト 衣く エト 龍風

ある エト 結来 エト 那 エト 聖堂

阿 エト 加 エト 又

よ エト 禁 エト 同 エト 年

編 エト 音 エト 高

ひらけりてはるるのよきかた

耕雪女

雜

いづれもふれをてはるる山

風韻

街をみよふとありふれり山

卒地

雲もふれをてはるる山

遠閑

冪も遠くを流るる水は清く

梅室

偶成

さきも春を淋く茶一杯

西馬

大空も別れのまをてはるる

南上

余真

田子居くよく見ゆるなり森花也

菊

川節をくうち能言は相

菊

城山を隔らぬ唐たうらばは

菊

瓦能寛る口を仕の屋敷

菊

月影を本層井くらの影

菊

空城をくく沙魚は里

菊

何となく抑息久柄の音味もくく
利了くまむくく洗濯く柄
看病能替りくんき紙弱く亭
暑心さくくくも通らぬ
鉢まけと澄の子供くせう海く
煮深ゆ敷くたをくく南
蝶採の家例をたぐくく也
数もく月年くくくくく

三 南 三 南 三 南 三 南

信くきく兎く洞くまぬたくき
まふ岸くくくくくくく
小窓くくくくくくの枝買亭
うくくくくくくくくく
永きりを素顔の若くくく
くく月越くくくくくく
相越く小屋の古種の間跡り
以牙少向く持くくく

三 南 三 南 三 南 三 南

持てとふまゝの阿とを起し
 一いふまゝの阿とを起し
 生梅とてまゝに毛虫の食ふを
 一年あつては尺を掃き去る
 糸俵の麦食はるる宵は月
 下地よまゝのかゝり舞の絵
 取次乃舞は色なきは梅子如け
 隣り出実はいふり以てむ

三 三 三 三 三 三 三

占はるゝまゝの阿とを起し
 江戸の人々よけりて意は
 惣頼能達も人のいと出来より
 ぞつてかゝるまゝの阿とを起し
 肴戸川へ押さるる料理屋
 離り名残よのむねあり

三 三 三 三 三

鷹さきさきし船先しあはれいとまのれ
ゆきゆきし草のうきゆきし雲風
埋火のうきゆきし蕙のうき
うきゆきし草のうきゆきし
手巻のうきゆきしうきゆきし
阿まのうきゆきしうきゆきし

三
三
三
三
三
三
三

実入乃序よき事しん歌はなま
人子結きし舞乃ふき事しん
折角とまゆし子傳の出代りし
葛西便りし子傳ふ
咲きゆきし草のうきゆきし
折角ゆきし草のうきゆきし
手掛ゆきし草のうきゆきし
まゆきし草のうきゆきし

三
三
三
三
三
三
三

四七〇

葉子花如... 白くあり
 霜冷したやう是乃重多き
 霜を... 盃は月
 玉... 船は火
 菊 三 菊 三

田所の... 風珠
 ... 祀
 ... 阿...
 ... 世...
 ... 命...
 ... 去...

一冊一集を管ひたる蓋好世は
門系先原の如く一にそむし
取と指云きう取下りし雲直をたかく
きむはも亦原若の如く原下
こそと抱主より原騰ふ志は

阿と取方きもつて甚はれと取
少と取方きもつて甚はれと取

保宮山系表の涅槃日
一可希度子筆を

逸州





